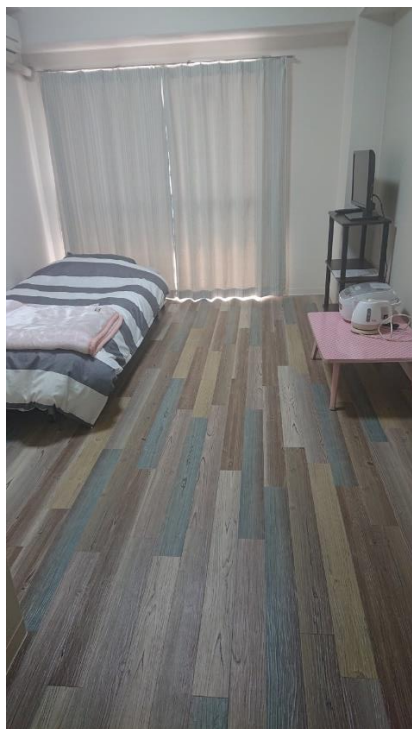


2022 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんおかやまにゅうきょしえんせんたー	
団体名	特定非営利活動法人おかやま入居支援センター	
代表者名	井上 雅雄	
連絡先	住所	岡山市北区広瀬町 2 - 1 1
	TEL	086-230-1056
	E-mail	jimukyoku@okayama-nyukyoshien.org
	URL	https://okayama-nyukyoshien.org/
設立年（西暦）	2009年	
助成活動名	空き家・空き室を改修して活用可能にし、対象を限定せず柔軟に活用できるシェルターを広域的に展開するとともに居住支援スペースを提供する事業	
助成額	1,000,000円	
活動内容	目的	<p>当法人は、住宅確保が困難な方に寄り添い、個人毎に行政・医療・福祉・財産管理・不動産仲介の支援ネットワークを形成して孤立を防止し、賃貸人と賃借人の双方に安心を提供して、誰もが安心して暮らせる街づくりを目指して活動を行っている。</p> <p>被災やコロナ禍に伴う社宅からの退去や虐待避難のための緊急居住ニーズや、障害者・高齢者・若年者・ひとり親・妊娠中・被災後の仮設住宅らの転居等のため、安定居住に至るまでの一時居住ニーズがある。</p> <p>他方で、空き家が社会問題となっており、早期活用が求められている。</p> <p>特定空き家を防止しつつ、被災者・被虐待者等の緊急居住や安定居住に至るまでの一時居住のニーズに応え、孤立しないように支援することを目的とした。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷のマンションの2室・岡山のマンションの1室を賃借し、シェルターとして運営して居住と自立を支援した。 ・50歳代のひきこもり男性を受け入れて自立を支援した。 ・DV被害の不安が強い19歳の女性の緊急避難を短期間受け入れた。 ・不穏になった50歳代の精神障害者のレスパイトとして短期間活用した。 ・音に過敏な精神障害者の20歳代の男性のレスパイトとして短期間活用した。 ・休職期間中の18歳男性を受け入れて自立を支援した。 ・60歳代の精神障害者の退院に向けた練習で活用した。 ・生活保護受給のための一時住居として精神障害者が活用した。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・シェルターを活用して引きこもりを解消することにより、50-80問題の家庭の安定化をもたらし、賃貸マンションへの転居を支援して自立のスタートをきることができた。 ・子どもシェルターモモと協力して支援し、ゴールデンウィーク中を安心して過ごすことができた。 ・シェルターのレスパイトとしての活用については、支援者との距離が問題となることが判明した。 ・若年者の自立支援のための活用にとって有用であることが判明した。 ・精神障害者の退院支援や自立支援にとって有用であることが判明した。
今後の課題と対応策	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェルターを継続していくための賃料の捻出 ・安定的運営 ・個別的支援 <p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途を定めないシェルターの有用性をPRする ・安定的運営のために他団体が保有している物件を活用する ・他団体と協力して個別的に支援する 	

倉敷 A



写真の提出



倉敷 B



岡山 A

